⑤第１回〜10回
グランプリ、準グランプリ作品ダイジェスト

◆第１回（2002年）◆

グランプリ：大島　知香さん（京都府立大江高等学校３年）

◎鬼温計

大江町は「鬼伝説」で有名な街で、大江高校では授業の一環として鬼グッズのアイディア開発に取り組んできた。

「鬼温計」は、体温計の棒の上にかわいい鬼の顔がついていて、体温を計る前は青鬼、平熱だと薄いピンク色の鬼、高熱の時は真っ赤な鬼になるという体温計。

準グランプリ：小薗　かづみさん　他４名（大阪府立金剛高等学校３年）

◎切符のウラは何じゃろな？

電車の切符のウラに「おみくじ」、大吉とか小吉とか印刷されていたり、あるいは１ポイント、２ポイントというような「ポイント」が印刷されていて、ポイントがたまると地元の商店街での買物に使えるというもの。

電車の切符だけではなく、様々なチケットやレシート類に応用できそうな楽しいアイディア。

準グランプリ：山本　修子さん（京都府立商業高等学校２年）

◎案内情報端末

セルフサービス化が進む大型店（スーパーやホームセンター）に採用してもらいたいアイディア。

商品名を入力すると陳列されている場所を教えてくれたり、本日のお買い得品が表示されたりする端末。また、欲しい商品が品切れのときは、連絡先を登録しておけば、入荷時に知らせてくれるというもの。

準グランプリ：森　頼子さん（滋賀県立八幡商業高等学校３年）

◎Moviegoers

映画ファンのための様々なサービス提供のアイディア。

プリペイドカードの購入で映画を割引で見ることができる。図柄は映画のポスターを縮小したものなど、カードそのものも収集できるようにする。

また、映画館内の食事、飲食できる場所には、最新映画情報を流すなど。

◆第２回（2003年）◆

グランプリ：深井　範子さん（滋賀県立八幡商業高等学校３年）

◎ベランダでプチ農園 ―自宅で採ろうフレッシュ野菜―

このアイディアは、毎月、収穫期１〜２週間前の野菜をプランターごと宅配するもので、水をやったりして野菜の世話を楽しむとともに、食べ頃にな

ったら新鮮な野菜を必要なだけ採って食べることができる。

残りの土やプランターは次の配達の時に、業者が持ち帰ってくれるという、ちょっとわがままな現代の消費者ニーズをうまくとらえたサービス。

準グランプリ：長谷川 里奈さん・福間 里乃さん（岡山県立岡山県東商業高等学校1年）

◎あたり付き牛乳パック計画 ―小さなことからコツコツ！―

牛乳パックの内側のそこに、「当たり」マークを付ける。飲み終わった後、牛乳パックを切り開かないと「当たり」かどうか分からないので、リサイクルに関心の薄い人も切り開いてくれる。

牛乳販売促進とともに、牛乳パックの回収・再利用の促進を意識したアイディア。

準グランプリ：グループ名「おにぎりフォース」

宮本 優さん・井上 智美さん・古野 峰彦さん・山本 紗知子さん（京都府立京都すばる高等学校3年）

◎～ちぎって捨てられる～ おにぎり４（フォー）

荷物の中に入れたおにぎりの形が崩れるのを防ぐおにぎりケース。三角形のおにぎりパックが４個つながったケースで、食べた分のパックは手でちぎってとりはずす。

素材も、燃焼時のカロリーが低く、紙と同様に燃やせるPPF（フィラー含有ポリプロピレン）を用いて環境に配慮している。

準グランプリ：グループ名「Ａ・Ｓ・Ｔ・Ｏ」

時岡洋平さん・佐野雅哉さん・安黒裕樹さん・大東啓太さん（神戸市立神港高等学校３年）

◎次世代型配達システム

高齢者が自宅から商品を注文し、宅配してもらうサービス。ネット注文を受ける宅配サービスは普及しはじめたが、高齢者には利用しにくい。このアイディアは、カタログやチラシの商品につけられたバーコードを読み取り機でスキャンするだけで手軽に注文できるようにしている。

◆第３回（2004年）◆

グランプリ：坂田　美幸さん（長崎県立宇久高等学校３年）

◎ 音声つき♪ 思い出いっぱい・昔なつかしアルバム

写真の横に音声録音ができる部分のあるアルバム。

カメラが携帯電話に付くようになり、またデジカメも普及し、手軽に写真が楽しまれるようになり、写真整理のノウハウ、テクニックが注目されている。様々なコメントを音声で簡単に記録することで、当時の思い出がより鮮やかによみがえるというアイディア。

準グランプリ：黒崎　悠太さん（岡山県立岡山東商業高等学校１年）

◎開店援助サービス

自分の店を開きたいと考えているが、資金が少ないために同種の大型店に比べて見劣りするという部分を改善するアイディア。

店を持ちたい人をネット上に登録し、特定の地域で、その地域に適した業種を集めて開業させるシステム。

準グランプリ：中野　綾子さん（神戸市立六甲アイランド高等学校３年）

◎パソコンリンクコンビニコピー

コンビニにあるコピー機にパソコンのデータを読み取る装置を付けて、データから直接印刷できるアイディア。

自宅では印刷が難しいA3サイズの原稿や、カラーコピー、枚数のかさむ原稿も手軽に印刷できるというシステムを考案。

準グランプリ：グループ名「松山屋 ―MATUYAMAYA―」

松本 美雪さん・山中 文子さん・宮崎 香林さん（京都府立京都すばる高等学校３年）

◎Roly-Poly（ローリー・ポーリー）

丸めて小さくできる携帯用水筒で、別添えカバーをつけることで冷たいものを入れても水滴がつかず、かつ飲み終わった後は小さくかさばらないというアイディア。

水筒やカバーの材質にもこだわり、手軽に何度も使えるように工夫されている。

◆第４回（2005年）◆

★ニュービジネス部門

グランプリ：尼田　聖朗さん（大阪府 同志社香里中学校・高等学校３年）

◎お薬手帳 ～GooDrug（グッドラック）～

病院で受け取る薬に関する情報を、電子手帳形式の端末機器にインプットしていくというアイディア。

薬の説明書は病院に行くたびに増え管理に困るほか、紛失や高齢者には読みづらいといった問題を有している。このような「不便・不満」に応える情報化社会ならではのアイディアである。

準グランプリ：窪田　理沙さん（東京都 田園調布雙葉中学高等学校３年）

◎21世紀型　高性能ナビゲーション付き車椅子

車椅子にナビゲーション・GPS機能を搭載し、利用者の外出を便利で楽しいものにしたいと考えるアイディア。また、最近の自転車にもみられる有名外車ブランドによるデザインにするといった楽しさも打ち出すなど、ポジティブな姿勢があふれる。

準グランプリ：西川　葵さん（山口県立大嶺高等学校２年）

◎モバイル冷蔵庫

商品のバーコード情報を携帯電話の「スケジュール」機能に読み込み、いつでもどこでも冷蔵庫にある食材情報を確認できるというアイディア。

専用サイトと連動し、食材を使ったレシピも入手できるという付帯サービスも考えている。

★地域や社会を元気にするビジネス部門

グランプリ：山崎　貴大さん（長野県 東海大学附属第三高等学校２年）

◎地域振興証券

「地域振興証券」とは、商店街を構成する個店などを証券化し、その証券を商店街の利用者や地域住民に購入してもらい、商店街振興につなげるというアイディア。

「配当」を商店の販売する商品にとどめず、各種サービスや地域通貨で提供することによって、いっそうの地域振興を図ろうと考えた。

準グランプリ：グループ名「なっちゃんズ☆」

喜畑　奈津美さん〈代表〉（三重県立相可高等学校３年）

◎豆乳伊勢茶プリン

三重県立相可高等学校が地域おこしの一環として取り組んでいる「まごの店」で販売する新商品の１つとして考案。

地産池消をコンセプトに、原材料は地元産品を使用、その組み合わせで絶妙な味わいを演出する。

◆第５回（2006年）◆

★ニュービジネス部門

グランプリ：土野　麻衣子さん（東京都 田園調布雙葉中学高等学校３年）

◎次世代チャリティー〈JC Let 's !!〉

インターネットを用いて、参加者同士がコミュニケーションをとりながらチャリティーをする仕組み。

インターネットが新たなコミュニケーションツールとして発展する時代背景を的確に捉え、相互扶助を現代的な形で高めるコミュニティ・ビジネスを提示した。

準グランプリ：内倉　健一朗さん（大阪市立天王寺商業高等学校３年）

◎言ノ葉便（ことのはびん）

携帯電話のメールを活字化し、手紙にして送るシステム。

利便性を追求する一方で、手紙や紙媒体を用いたコミュニケーションを大切にしたいとする意識を持っている。デジタルとアナログの良さをミックスさせた。

準グランプリ：曽田　美佳さん（岡山県立岡山東商業高等学校１年）

◎映画ナビ

上演案内や空席情報、あらすじなど映画鑑賞に関するさまざまな情報を、専用のタッチパネルで見ることができる。最近はシネマ・コンプレックスが映画館の主流となっていて有用性が高く、既存の端末システムを改良するだけで実現の可能性も高い。

★地域や社会を元気にするビジネス部門

グランプリ：光田　裕也さん（広島県立三次高等学校２年）

◎農村地帯の活性化プラン ～ニート問題と高齢化社会問題解決のために～

高齢やその他の理由で耕作されなくなった農地を集め、それを主に若者に就業機会として供給するというアイディア。

高齢者には、農業アドバイザーとして関与してもらい、高齢者の生きがいを生むのみならず、日本農業の将来や食料自給率まで視野に入れている。

準グランプリ：梅岡　美穂さん（京都府立京都すばる高等学校３年）

◎ドキドキ！秘密の京都ツアー

ガイドブックには載っていない京都の穴場の店などを京都好きの観光客に知ってもらうのと同時に、近年停滞状況にある交通機関（バス・タクシー・電車）を利用してもらい、京都の活性化と交通機関の活性化を図るアイディア。

準グランプリ：萩原　惇平さん（富山県立富山商業高等学校２年）

◎商店街利用促進隊

スポーツクラブのランニングマシン利用などで電気を発生させ、それを地域の商店街に供給する仕組み。電力供給者には商店街の商品券などを提供することで、地域住民と商店街との結びつきを強めようと考えている。地球温暖化問題にも対応したアイディア。

◆第６回（2007年）◆

★ニュービジネス部門

グランプリ：嵯峨　恭子さん（兵庫県立洲本実業高等学校３年）

◎脳活性化!? 遊園地

ゲームやテレビ番組をヒントに、そのエッセンスをミニ・テーマパークの運営へと応用したアイディア。

近年の遊園地の経営動向にも言及し、その課題に対応する処方箋を豊かな着想で示した。

準グランプリ：玉田　勇太さん（大阪市立中央高等学校３年）

◎お年寄りにやさしい熱中症対策の扇風機

毎年猛暑がつづき、熱中症になる高齢者が多い現状に対して、判別しやすい表示機能や「ミスト機能」などを設定した高機能型扇風機。

★地域や社会を元気にするビジネス部門

グランプリ：麻田　恵利さん（京都府立京都すばる高等学校３年）

◎和菓子とともに、あの人のあの場所を廻るプラン

歴史上の人物をデザイン化した和菓子を、その人物ゆかりの地を中心に販売するアイディアで、和菓子と歴史という京都の地域資源を活かしている。

販売機間も限定し、在庫を少なくするよう配慮。また、採算性も緻密に試

算した。

準グランプリ：グループ名「横浜お試しイロハハハ計画」

小林茉菜さん〈代表〉（横浜市立横浜商業高等学校３年）

◎大商売ビジネス甲子園

全国の高等学校が地域の特産物の販売、自校や地元のＰＲなどを「試合形式」で行う企画。

自校で既に実践している取組みをベースにしたアイディア。

◆第７回（2008年）◆

グランプリ：野口　雅貴さん（茨城県 清真学園高等学校・中学校１年）

◎防災セット点検サービス

配置薬のシステムを利用した災害時に備える防災セット（防災袋・非常袋）の点検や取替えを行う新しいビジネスサービス。

年１回から数回、定期的に顧客の家を訪ね、点検・支払い・補充・修理サービスなどを行う。

定期的に点検することで忘れがちな防災への意識を喚起することもできる。

準グランプリ：小川　哲さん（岡山県立岡山東商業高等学校１年）

◎警報機付き点字ブロック

視覚障害者に大切な点字ブロックの上の荷物や自転車から守りたいと考えたことが発端。

ランプとスピーカーが内蔵されエネルギー源は太陽パネルを採用。点字ブロックに荷物が載ったままだとランプと音で警告する。

準グランプリ：大箸　貴宏さん（静岡県立天竜林業高等学校２年）

◎アイディア調味料入れ

キッチンや食卓で、調味料入れの中の塩やコショウが固まって出にくくなることを防ぐシェイクスパイラル付き調味料入れ。

中ぶたにらせん状の針金を仕掛け、中ぶたを回すと同時に針金が容器内をかき回す。

◆第８回（2009年）◆

グランプリ：湯澤　薫さん（茨城県 清真学園高等学校・中学校１年）

◎音楽療法配信サービス

大好きな音楽で人を助けられる方法として、音楽療法配信サービスを考えた。

インターネットを利用し、希望する人が音楽療法士に電子メールで相談を申し込む。症状や状況に合わせた曲を提案し、希望者が視聴して気に入れば、曲を買い取る仕組みである。

音楽療法士を「音の薬剤師」として活用するものにつながるのではないかと考えている。

準グランプリ：中　有香さん（奈良県立五條高等学校３年）

◎起きたの知らせます。

子どもが寝ている間も、親が安心して家事や仕事が出来たらという思いがアイディア発想の原点。

人は起きると心拍数が増えるといい、赤ちゃんの場合は就寝時の1.5倍という。この変化を利用して、子どもが起きたことを親に知らせる装置。

◆第９回（2010年）◆

グランプリ：グループ名「パソコン部Ｂ」

古本 力さん、佐伯 流星さん、竹内 哲也さん、山下 一将さん（愛媛県立弓削高等学校１年）

◎高齢者電話サービス（詐欺防止！生活安全サービス）

高齢化に乗じた「振り込め詐欺」を防止するため、高齢者向け電話サービスによる「詐欺防止策」を考案した。

まず警視庁などの行政機関の持つ詐欺情報をデータベース化する。専用の電話器に備わるボタン１つで相談員に相談でき、また、会話のフレーズから詐欺かどうか判断し利用者にランプで警告する機能など考えた。

今の高齢者支援制度は財政難や人手不足、民生委員の高齢化など課題が多い。社会的な意義のあるビジネス。

準グランプリ：浅見　祐美子さん（東京都 平尾学園中学校・高等学校２年）

◎オーダーメイド・ブックストア

本離れや書籍の電子化が進み書店が危機に直面している今、好きな本をオーダーメイドで印刷・製本してもらえる本屋を考案。

ほんの中身をパソコンから取り出し、サイズやデザインを決めて発注。その際に広告も入れることもでき、その分価格を抑えることができる。

準グランプリ：グループ名「核家族化対策班」

中山 樹さん・園山 拓美さん・中田 美保さん・西岡 侑希子さん・野本 和歩さん（兵庫県立西宮高等学校1年）

◎めぶきの家

「ぬくもり」を大事に考え、社会貢献を目的とした保育所。中高年を優先雇用し、０～３歳児を受け入れる。資金は行政の助成、保護者の保育料、高齢者雇用モデル企業助成金を考えている。

◆第10回（2011年）◆

グランプリ：グループ名「ＹＡＭ」

横林夕夏さん・吉原晶穂さん・原茉凛さん（大阪市立淀商業高等学校３年）

◎ＮＥＷ！浴剤！

通常の入浴剤は粉末や液体で、単一のものが多いが、この「NEW！浴

剤！」は、色や香りの成分と、効能成分を別々にしたブロック型の入浴剤。数種類を組み合わせて使う。

色は白と赤を組み合わせればピンク、青と黄を組み合わせれば緑になるといった変化を楽しみ、香りはよくある花やハーブの香りだけでなく、バナナ、トマト、キムチ、カニなどの香りもある。効能は「温まる」「気分が落ち着く」だけでなく、「ダイエット」「恋をしたくなる」といったものも。このような楽しい入浴剤があれば家族で一緒に入る機会も増えるかもしれない。NEW！浴剤！を使って新しい生活シーンを提唱していくことも考えている。

準グランプリ：齋藤友里菜さん・新村有己乃さん・
奥山詩織さん・内藤優衣さん（静岡県立浜松東高等学校２年）

◎地域活性化事業　遊休農地の活用法　ドリームファーム事業

浜松は工場都市のイメージがあるが、農業も盛んで、市町村別の農業生産高では全国４位。しかし、この10年で耕地に占める遊休農地の割合は増えた。この状況から遊休農地の活性化策を提案することとした。地域の学校が近くの遊休農地を借り上げ、児童・生徒が中心となって農産物を生産・販売する。Ｂ級グルメの企画・開発・レシピ作りなども加え、それを「地産地消」に繋げ、地域活性化を図っていく。農業の担い手の人だけでなく、地域の工業、商業などさまざまな方面との連携し、盛り上げていきたい。

準グランプリ：石田　雅人さん（愛知県立杏和高等学校２年）

◎マイマウスＪＦＭ

長時間のパソコン作業の疲労軽減のために、柔らかいシリコン素材で作られた「マイマウスJFM」というマウスを考えた。シリコンジェルを使ったマウスは手の温度で形状が変わり、誰の手でも合う。自分に合ったマウスだと疲れにくい。防水加工も施し、洗えるので清潔。色は12色展開を考えている。マウスの上部に加工するため、通常のマウスに比べると少し大き目にはなるが、一般的な価格で売り出せると思う。

※第４回～第６回は「ニュービジネス部門」と「地域や社会を元気にするビジネス部門」に分かれていました。

※学校の名称、学年はそれぞれ応募当時のものです。